（第二版）（明治一一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十八年十二月五日（日曜日）　臺灣日日新報　第一万五千七百二十號　（一）

臺灣日日新報

本日四頁

常徳を完全占領

敵屍捕虜二萬一千餘

大本営發表（十二月四日十六時）

十一月二日より重慶軍第六戰區に對し進攻作戰中の帝國陸軍部隊は同戰區の敵に徹底的打擊を與へ十二月三日十一時常徳縣城を完全に占領せり、本作戰開始以來十二月一日までの主要なる綜合戰果（常徳縣城攻略戰の戰果を含ます）次の如し

一、敵屍捕獲數　一萬一千餘

二、鹵獲

野砲　十門
山砲　十門
迫撃砲　十門
高射機關砲　二門
戰車砲　二門
機關銃　二百二十挺
小銃　二千挺
擲彈筒　二百二十筒
彈藥　多數
自動車　二十輛
馬　二百頭
火砲彈藥　多數
小銃彈藥　多數
手榴彈　多數
爆藥　多數
通信機　多數
被服　多數
糧秣　多數

三、我方の損害

戰死　一千二百六十一名
戰傷　四千二百九十九名
行方不明　一千三百六十四名
飛行機喪失　十四機
戰車喪失　二輛
火砲喪失　七門
自動車喪失　二十輛
馬喪失　百七十五頭

四、敵の損害

我が方の損害戰死五百五十六名を遙かに凌駕する敵屍捕獲數一萬一千餘に達したるのみならず敵の野砲、山砲、迫撃砲、戰車砲、高射機關砲、機關銃、小銃、擲彈筒、自動車、馬、火砲彈藥、小銃彈藥、手榴彈、爆藥、通信機、被服、糧秣を始め莫大なる軍需品を鹵獲し又敵の戰車二輛、火砲七門、自動車二十輛、馬百七十五頭を喪失したるが如く敵に與へたる損害は我が方の損害を遙かに凌駕する莫大なるものと判斷せらる

第六戰區に致命的楔

敵の反攻益々執拗

ギルバート方面大戰果

【東京發】北部佛印方面國境の警備に當つてゐた我が部隊は十一月一日以來數次に亙つて國境を越えて侵入した敵の有力なる部隊と交戰中であつたが敵は十一月十日以來その一角に突入して以來十一日間の激戰の後遂に十一日夜半以降敵の潰走を見るに至つた

【東京發】十一月五日午前十一時發表の大本營陸軍部發表に依つてわが部隊の一部は去る二十五日以來ビルマ國境を越えて敵地に進攻中であつたが敵は十一月十日以來その一角に突入して以來十一日間の激戰の後遂に十一日夜半以降敵の潰走を見るに至つたと

社說

大陸の戰況について

大東亞戰爭開戰以來、我陸軍は大陸に於ても敵米英と決して劣らざる堂々たる戰ぶりを發揮して來たのであるが、戰爭の性格上、我が方の戰果は餘り發表されないので、一般國民は我が陸軍の大陸に於ける戰況に關しては、ともすれば無關心に陷り勝ちであるが、これは大いに戒めなければならない。

今や、大東亞戰爭の戰局は、大陸と海洋とを問はず、全面的に大きく動いてゐるのであつて、特に大陸に於ける戰況は、我が陸軍の大陸作戰の成果が、大東亞戰爭の勝敗を決する上に重大な關係を有するものであるから、我々國民は、常に大陸の戰況に關心を持ち、その動向を正しく把握しておく必要がある。

◇

申すまでもなく、支那事變は、大東亞戰爭に先立つこと四箇年半前にその火蓋を切つたが、我が國は、この長期に亘る戰爭の全期間を通じて、常に大陸に於ける戰局の安定に努力し、遂に今日の大東亞戰爭の基礎を確立したのである。

從つて、大陸に於ける戰局は、大東亞戰爭の勝敗を決する重要な要素であつて、我が陸軍は、この大陸に於ける戰局の安定に、その全力を傾注して來たのであるが、この陸軍の活動は、大陸の奥地に於ける戰鬪のみならず、廣く南方諸地域の作戰にも協力し、更に海洋に於ける作戰にも協力して來たのであつて、如何にそれが廣範圍なものであるかは、實に驚くべきものがあるのである。

而して、之に對する米英の態度は、大陸に於ては、大東亞戰爭の勃發後、その全力の發揮を期待されてゐた米英の援蔣ルートを斷たれ、更に大陸に於ける我が陸軍の作戰によつて、米英の大陸に於ける軍事的地位は、全く覆滅されたものであるから、米英は大陸に於ける戰局に關しては、全く無關心の態度を採つてゐるものであつて、從つて、大陸に於ける我が陸軍の作戰は、米英の全く關知しないところで、我が陸軍は、大陸に於ける戰局の安定に、その全力を傾注して來たのであるが、この陸軍の活動は、大陸の奥地に於ける戰鬪のみならず、廣く南方諸地域の

武勳燦こ輝く

大東亞戰に敵を蹂躙

多いぞ……後續精銳

樋端大佐の散華を悼む

松永少將の懷舊談

佐藤治尾飛特中尉、金井昇飛特少尉（山口縣出身）、田植良和飛曹長、佐々千年一飛曹、吉山勝一整曹、安倍芳房三飛曹、三吉十一三飛曹はマライ航空戰に於ける赫々たる武勳を樹てた。即ち昭和十六年十二月八日、マライ半島コタバルに上陸開始の敵船團に對し、第一線基地から出撃、敵船團の中心に對し、決死の肉彈攻撃を敢行、敵輸送船團を潰滅的打撃を與へ、上陸開始を遲延せしめ、陸軍部隊の上陸作戰を容易ならしめた。

次いで、十二月十日、マレー半島東方海上に於ける敵艦隊捕捉撃滅の際、敵戰艦「プリンス・オブ・ウエールズ」及び巡洋戰艦「レパルス」に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、「レパルス」に魚雷命中、轟沈せしめた。

その後、十二月二十四日、ボルネオ島クチン飛行場に對する攻撃に於いて、敵戰闘機の邀撃を受け、壯烈な戰死を遂げた。

小川正一中佐は、昭和十六年十二月八日、マライ半島コタバルに上陸開始の敵船團に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、敵輸送船團を潰滅的打撃を與へ、上陸開始を遲延せしめた。

その後、昭和十七年二月十五日、シンガポール攻略戰に於ける敵艦隊捕捉撃滅の際、敵戰艦「プリンス・オブ・ウエールズ」及び「レパルス」に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、「レパルス」に魚雷命中、轟沈せしめた。

その後、昭和十七年四月十九日、ベンガル灣に於ける敵艦隊捕捉撃滅の際、敵戰艦「ハーミス」に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、「ハーミス」に魚雷命中、轟沈せしめた。

その後、昭和十七年八月七日、ソロモン群島ツラギ、ガダルカナル、ガブツ、タナンボゴ、ルンガ泊地に來攻した敵艦隊に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、敵輸送船團を潰滅的打撃を與へ、上陸開始を遲延せしめた。

その後、昭和十七年八月八日、ソロモン群島ツラギ、ガダルカナル、ガブツ、タナンボゴ、ルンガ泊地に來攻した敵艦隊に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、敵輸送船團を潰滅的打撃を與へ、上陸開始を遲延せしめた。

その後、昭和十七年八月二十四日、ソロモン群島東方海上に於ける敵艦隊捕捉撃滅の際、敵戰艦「サラトガ」に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、「サラトガ」に魚雷命中、轟沈せしめた。

その後、昭和十七年十月二十六日、南太平洋海上に於ける敵艦隊捕捉撃滅の際、敵戰艦「エンタープライズ」に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、「エンタープライズ」に魚雷命中、轟沈せしめた。

その後、昭和十七年十一月十二日、ソロモン群島東方海上に於ける敵艦隊捕捉撃滅の際、敵戰艦「ワシントン」に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、「ワシントン」に魚雷命中、轟沈せしめた。

その後、昭和十七年十一月十四日、ソロモン群島東方海上に於ける敵艦隊捕捉撃滅の際、敵戰艦「サウスダコタ」に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、「サウスダコタ」に魚雷命中、轟沈せしめた。

その後、昭和十七年十一月十五日、ソロモン群島東方海上に於ける敵艦隊捕捉撃滅の際、敵戰艦「ワシントン」に對し、第一次攻撃隊として、魚雷攻撃を敢行、「ワシントン」に魚雷命中、轟沈せしめた。

その後、昭和十七年十一月十五

志願の若人に榮光あれ

嘉義から一萬六千
志願者日を追ひ激増

【嘉義特電】嘉義郡下に於ける陸軍特別志願兵の志願者は日を追うて激増しつゝあり、二日の受付分は三十九名で、これまでの志願者は合計三千百二十六名となり一萬六千百九十六名の郡内青年の殆んどが志願したことになつてゐる、なほ二日の志願者の内訳は本島人三十四名、内地人五名である

志願熱愈よ昂る東港
六千五百名を越ゆ盛況

【東港】待ちに待つた陸軍特別志願兵の昭和十九年度採用第一回志願受付は愈よ一日から開始されたが、一日から二日にかけて志願者は殺到し、二日午後九時までに六千五百名を越ゆる盛況を呈してゐる、なほ一日から二日の午後九時までの志願者は内地人百十名、本島人六千三百九十名で、内地人は本島人の五十分の一に過ぎないが、これは内地人の人口が本島人の五十倍であることを考へれば、内地人の志願熱は本島人の五十倍であるといへる、尚二日の志願者は内地人三十名、本島人六千四百八十名で、一日の志願者に比べ内地人は六倍、本島人は二倍の増加を示してゐる

漁村にも赤誠溢る
基隆郡號獻納に感銘

【基隆】基隆郡下漁村の熱誠溢るゝ獻納運動は、郡内各漁村に於ても盛んに展開されつゝあるが、去る十一月二十日基隆郡漁業組合聯合會に於て、郡内漁村の獻納運動を一層強化徹底せしめるため、郡内各漁業組合代表者を集めて協議會を開催、協議の結果、郡内漁村の獻納運動を一層強化徹底せしめることゝなつた

◇十二月一日午後四時三十分より　木下兵務課長官舎（木下氏官舎）
◇十二月二日午後四時三十分より　臨時郡民會（木下氏官舎）
◇十二月六日午後四時三十分より　臨時郡民會（木下氏官舎）、林前民長官舎、志願兵の母）　基中前校長官舎（志願兵の母）　基中前校長官舎（八分間）

◇十二月七日午後四時三十分より　基中前校長官舎（八分間）
◇十二月八日午後四時三十分より　木下兵務課長官舎（木下氏官舎）
◇十二月九日午後四時三十分より　臨時郡民會（木下氏官舎）
◇十二月十日午後四時三十分より　臨時郡民會（木下氏官舎）、林前民長官舎、志願兵の母）　基中前校長官舎（八分間）

◇十二月十一日午後四時三十分より　木下兵務課長官舎（木下氏官舎）
◇十二月十二日午後四時三十分より　臨時郡民會（木下氏官舎）
◇十二月十三日午後四時三十分より　臨時郡民會（木下氏官舎）

一ケ月間十六萬圓
無敵海軍へ赤誠の獻金

兄に續く譽れの戰死
輸送戰の華・賴來順君

【嘉義】嘉義郡大林庄出身の賴來順君（二四）は、昭和十七年十月海軍に志願入隊、基礎訓練を終へ、昨年十月一等水兵に進級、輸送船に乗組み、南方海面の輸送戰に活躍中、本年十月二十日附で海軍上等兵に進級、十一月一日附で海軍兵曹に任官、十一月二日附で海軍兵曹に任官、十一月二日附で海軍兵曹に任官、十一月二